

来週の市場とレート予想

	12/25(月)	12/26(火)	12/27(水)	12/28(木)	12/29(金)
無担保O/N			△0.086%	0.001%	
銀行券	△2,300	△3,000	△3,000	△2,000	△1,000
財政他	△9,000	△6,000	+4,000	+2,000	△1,000
資金需給	△11,300	△9,000	+1,000	トシ	△2,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)				
オペ期日	共通担保(全店) △3,100 CP等買入 △1,100 社債等買入 △100 国債補完供給 +400				
オペスタート	共通担保(全店) +5,200 社債等買入 +1,500 ETF買入 +300	国庫短期証券 +10,000			
(日本)		金融政策決定会合の議事要旨(10月30、31日分) 黒田日銀総裁、講演(経団連第6回審議委員会) 完全失業率(11月) CPI(全国11月、都区部12月)		金融政策決定会合における主な意見(12月20、21日分) 当面の長期国債等の買入の運営について	
(海外)	米 株式・債券市場休場		米 消費者信頼感指数(12月)	米 新規失業保険申請件数(23日終了週) 米 シカゴ製造業景況指数(12月)	

<インターバンク>

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.025 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.025 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.025 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

日銀当座預金残高は週初、367兆3,100億円から始まった。その後は、短国・国債買入オペを主に増加し、週末には370兆4,100億円となった。
無担保コールON物は新積み期に入ったことで、ビッドサイドが慎重な動きとなった。そのため、ON加重平均金利は先週末の△0.037%より低下し、週を通して△0.048~△0.044%のレンジで推移した。ターム物は月内物の1Wを中心に、△0.04%台での取引が中心であった。
12月20日から21日に行われた日銀金融政策決定会合では、金融政策の現状維持を決定した。また、景気については「緩やかに拡大している」として、10月の前回判断を据え置いた。
来週は、国内ではCPI発表(全国11月、都区部12月)(26日)、海外ではアメリカ消費者信頼感指数発表(12月)などが予定されている

<CP>

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	△0.010 ~ 0.000
TDB 3M	△0.230 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

今週の入札発行総額は約1兆2,500億円で、週間償還額の約1兆600億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。連日、多くの企業からまとまった金額の発行があり、活況なマーケットであった。週末の発行残高は、17兆7,900億円程度となった。
発行レートは、ディーラーや投資家の購入ニーズが強く、マイナスから0%近辺での出会い。
来週の償還額は、年末日の大量償還(約2兆5,500億円)があり、3兆4,100億円程度となっている。年末日の発行は、四半期決算の残高調整で大幅に減少すると思われるが、月末残高は10か月連続で前年同月(14兆8,889億円)を上回り、16兆円台半ばを予想する。26日には、CP等買入オペが5,000億円程度オファーされる予定となっている。
発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、引き続きマイナスから0%近辺での出会いであろう。現先レートは、▲0.100%~0%程度での出会いで、横這い圏内での推移を予想。

<TDB>

18日に行われた国庫短期証券1Y第728回債の入札は、最高落札レート△0.1497%(前回債△0.1936%)、平均落札レート△0.1547%(同△0.2145%)と前回からマイナス幅を大きく縮小。また、20日に行われた3M第729回債は、最高落札レート△0.1751%(前回債△0.1786%)、平均落札レート△0.1881%(同△0.1954%)と前回債から小幅マイナス幅を縮小した。週末のセカンダリー市場は、新発3M物が△0.20%とやや買われる展開であった。
来週は国庫短期証券の発行は予定されていない。

<レポ>

週初の足許GCIは、国債の大量発行を受け先週末対比レート上昇。△0.09%~△0.095%から始まり、以降は同水準の出会いが続いた。短国3Mの発行日である25日受渡しは、T/Nで△0.08%台の取引が一部見られたが、週末には再度△0.09%~△0.095%の出会いとなった。
SC取引では、10年348回債のbidが多く見られ、週を通して概ね△0.40%台後半~△0.50%台前半。5年133回債は週前半まで△0.20%台半ば~△0.30%台半ばの出会いが続いていたが、週末には△0.40%台で一部取引された。他2年381・382・383回債、5年131・132回債、10年336・340・341・342・346回債、20年162・163回債、30年55・56回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。